

日本赤十字社臨床検査技師会会誌

# 日 赤 検 査

The Journal of Japanese Red Cross Medical Technology

—— 2005 —— 第39卷 第1号 ——



日本赤十字社臨床検査技師会

# 目 次

## 【巻頭言】

顔の見える検査室へ……………	日本赤十字社臨床検査技師会会長 引地 睦悦……………	1
----------------	----------------------------	---

## 【研究】

前立腺癌診断における34βE12,p63の有用性……………	前橋赤十字病院 富沢 一与ほか……………	2
下大静脈から右心房への進展をきたした静脈内平滑筋腫症の一例 ……………	前橋赤十字病院 久保田 淳子ほか……………	5
梅毒スクリーニング検査の自動化に向けて……………	前橋赤十字病院 伊佐野 和代ほか……………	10
嫌気用培地の管理変更に伴う嫌気性菌の検出状況と薬剤感受性 ……………	豊科赤十字病院 保坂 力ほか……………	17
入院時の患者鼻腔内 <i>M. catarrhalis</i> の保菌状況に関する一考察 ……………	豊科赤十字病院 赤羽 貴行ほか……………	20
血液透析患者の血清中Pro-gastrin releasing peptide (ProGRP) ……………	松江赤十字病院 錦 織昌明ほか……………	27
日赤東部ブロック研修会 講演 産婦人科領域のホルモン検査……………	秦野赤十字病院 産婦人科部長 平井 規之……………	30

## 【報告】

平成17年度日本赤十字社臨床検査技師会業務研修会……………	42
ご挨拶……………	43
教育講演会 国際的な視点で赤十字を見ると……………	44
シンポジウム 検査部セイフティマネジメント	
輸血関連検査について……………	49
採血関連及び検査受付業務について……………	52
SMBG正確なデータを提供していただくため……………	57
病理、細胞診検査部門セイフティマネジメント……………	60
NST……………	66
平成17年度日本赤十字社臨床検査技師業務研修会アンケート調査……………	68
「赤十字医療施設における検査業務実態調査」報告……………	73
平成17年度日本赤十字社臨床検査技師会総会議事録……………	115
【会 則】……………	126
【役員名簿】……………	135
【会員名簿】……………	137
【同窓会役員名簿】……………	168
【同窓会会員名簿】……………	169

## [ 巻頭言 ]



## 顔の見える検査室へ

日本赤十字社臨床検査技師会

会長 引地 睦 悦

(名古屋第二赤十字病院)

会員の皆様には、日々の業務および研究等に益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より日本赤十字社臨床検査技師会に対し、格別のご支援、ご協力を受け賜り深く感謝申し上げます。

去る7月の総会にて会長職を拝命し、まだ4ヵ月あまりですが、その責任の重さに胃が痛くなる思いです。しばらくは試行錯誤の状態が続くと思いますが、執行部並びに常務理事や会員各位のご支援を頂きながら任期を全うする所存であります。

さて、今年度の事業計画では、前年度よりの継続事業である「検査統計の標準化」また、組織の強化ということで「組織部」を設置し、先般は両アンケート調査を実施しました。ご多忙のところご協力ありがとうございました。「検査統計の標準化」につきましては、今後も本社医療事業部と協議を進めていきます。また、アンケートにしましても集計結果を分析し、当会の運営に反映していきたいと考えております。

学術部の事業といたしまして、検査部の安全管理対策の日常業務への啓蒙・普及と反映、小規模施設への安全管理対策の支援等を目的として、17・18年度の2ヵ年計画で「検査部のセフティーマネジメント」を7つのテーマに分け進めております。既に、今年度は①病理・細胞診検査②輸血関連検査③採血・受付関連④臨床支援の4部門が終わり、18年度は⑤細菌検査⑥一般・免疫血清・血液・生化学検査⑦生理検査 を実施いたします。また、当会のホームページが片山一重氏(深谷)のご尽力により完成いたしました。会誌共々皆様のご意見・ご投稿等にご利用くださるようお願いいたします。

平成18年4月には診療報酬改定があります。検査点数と実勢価格の乖離幅が依然として大きく、検体検査実施料が2桁?とも言われる大幅な引き下げが予測されます。一方で、当日の検査結果に基づき診断・治療をより迅速・安全かつ適正な医療の提供を行うことが可能として、「外来迅速検体検査」または「診察前検査加算(仮称)」の算定が中医協で検討されております。

このように、臨床(検体)検査コストが削減される中、私たちは、診察前検査、採血、24時間体制、糖尿病療養指導関連、NST・ICT・クリニカルパス等に積極的に参画し、病院経営陣や他の医療従事者に対しアピールしていくことが重要になってくると考えております。

去る6月24日に開催された日本赤十字社第65回代議員会において、近衛忠輝日本赤十字社社長は赤十字の使命(活動)の一つである、国内外の医療救援活動、自然災害や戦争・内紛による被災者救援をおこなうことで、「顔の見える救援」に一層寄与すべきであると、述べられておりました。

チーム医療や臨床支援を通して、私たちの病院検査室が「顔の見える検査室」になることを願っております。

終わりに当たって、本会誌の編集・発行に多大なご尽力を頂いた、小島行雄(芳賀)、大西一明(足利)両常務理事に深く感謝いたします。